

第24期 第2回理事会議事録

日時 昭和61年11月5日(水) 18:00~20:00

場所 名古屋市千種区池下町 2-63

愛知厚生年金会館 梅の間

出席者 理事: 山元, 関口, 浅井, 松野, 竹内, 河村,
村上, 中村, 土屋, 菊地, 田中, 渡辺,
武田, 廣田, 伊藤, 瓜生, 石島

監事: 相原

中部支部: 樋口, 佐藤

議事

A. 議事録の確認及び報告事項

中村庶務担当理事が審議時間の関係上, 第24期第2回常任理事会議事録の確認及び各委員会の報告については資料によることで省略, 後刻意見を伺うこととして議事を進めた。なお, 次の報告が特にあった。

[庶務]

事務機械化の必要上, パソコン入力データの収集のための会員の基礎資料を年会費の請求時に照会するので, 協力願いたい。

[講演企画]

ポスターセッションについてのアンケートをお願いしているが, この結果を検討のうえ, 62年度春季大会(会場筑波大学)で試行する予定である。

B. 審議事項

1. 学術会議会員の選出方法について

浅井理事から資料にもとづいて, 前回の選出にあたっての経過問題点などについて説明があり, 推薦の仕方を決め, 場合によっては62年度の総会に提案する必要も生ずるとして意見を求めた。各理事からの意見を踏まえて文案を作成し, 常任理事会で検討のうえ, 再度理事に照会することとなった。

2. 国際学術交流基金の寄付金について

山元理事長から, 会員からのカンパの現状の説明と謝辞があり, 今後, 常任理事を中心に諸団体に募金をするが, 各支部も募金依頼について積極的に働きかけができるよう協力要請があった。これに対し, 支部の協力はおしまないが情勢はきびしいなどの発言があった。常任理事会で具体案を検討するので, それまでに意見を提出願うことと

なった。

3. 事務総長を設けることについて

山元理事長から, 学会の実務処理は事務局専任2名と庶務, 会計理事で行っているが, 雑務案件の処理に追われており, 外国会員, 外国学会への対応が十分でなく, また, 当学会の事務運営を将来どのようにしていくかなどの展望をたてる余裕がないなどの点があるので, これらを処理するためのポスト・実員を配置することの構想の説明があった。審議の結果, 事務総長に求める役割を絞ることを含めて常任理事会でさらに検討, 成案のうえ, 理事の意見を伺うこととなった。

4. IAMAP 総会(1993年)の招致について

山元理事長から, 来年8月バンクーバーで開催のIUGGの総会があり, これに反映させることから, 1993年のIAMAP総会を日本に招致する意向を固める必要がある旨説明があった。さらに, 浅井理事から昨年8月ハワイの総会で1989年のUKへの招致が可決された経過等の補足説明があった。また, 樋口中部支部長(オブザーバー)から陸水学会での対応などについて説明があった。検討の結果, 各理事の発言を整理し, さらに議論を深め, 常任理事会で実質的な意見を固めていくこととなった。

5. 常任理事の交替について

山元理事長から, 杉村常任理事(天気編集委員長)が仕事の都合により常任理事を辞任したいとの申し出があった旨説明があり, 承認された。後任には関口理事(理事長代理)が承認された。天気編集委員長には現副委員長の河村常任理事が, 副委員長には山川常任理事が担当することに, それぞれ承認された。

6. NWP シンポジウム論文集特別号編集委員について

松野気象集誌編集委員長から, この論文集を気象集誌特別号として, 予定どおり, 論文70編, B5版(ハードカバー付)700頁で刊行する旨報告があり, これの編集委員は北出武夫(気象庁), 近藤洋輝(気象研究所), 住 明正(東大), 時岡達志(気象研究所), 中村 一(気象庁), 山岸米

二郎（気象庁）、山岬正紀（気象研究所）、松野太郎（東大）が担当する旨報告があり、それぞれ承認された。

7. 気象集誌における著作権の扱いについて

村上理事から資料にもとづき説明があり、11月中までに意見を提出願ひ、次回の常任理事会で決めることとなった。

8. 昭和62年度予算案（第1次案）について土屋会計担当理事から資料（第1次案）にもとづいて説明があり、最終案は62年2月1日現在の会員数を

基礎として作成するので、それまでに意見があれば提出願ひ、最終案を再度理事に照会することで了承された。

9. 会員の新規加入の承認について

個人会員巻島秀男ほか8名の新規加入が承認された。

10. その他

河村天気編集委員長から編集委員に甲斐憲次（気象研）を追加したい旨報告があり承認された。

新企画のお知らせ

天気編集委員会では、誌面を興味深く、又、読み易くするために、今年度からの様々な企画を検討して来ましたが、一つの方向として、“情報誌”としての側面を強化することにしました。

このような側面を持つ企画として、次の

- ① インタビュー記事「素顔'87」
- ② 最近の研究から
- ③ 情報ファイル

の3つの企画を2月号から行うことに決めました。

最初の“インタビュー記事”とは、日本の内外で活躍している著名な気象学者の人達に、「何故、気象学を選んだのか?」「何が今一番面白いのか?」などの質問を浴びせ、答えてもらおうというものです。

2番目の“最近の研究から”とは、ともすれば従来の

解説は、全ての分野の review をしなければと気負うあまり、原稿を集めるのも大変でしたし、著者も大変でした。この企画は、“今、自分が研究していて、こんな面白そうな事が出て来た、とか、最近、こんなことが、自分の分野で話題になっているよ”というような、研究者の個人的な興味を1ページ程度で述べてもらおうというものです。第一線で活躍されている会員諸兄・諸姉の投稿を待っています。

3番目の情報ファイルは、従来の NEWS の拡張で、種々の publication 等の中から、有益な情報を探して編集してゆこうというものです。

誌面を良くするも悪くするも会員各位の協力次第によります。今後共よろしくお願いします。

(天気編集委員会)

編集後記：本号から、杉村行勇氏に代わって、私が編集委員長をお引受けすることになった。かつて私が本誌の編集にたずさわっていた時から、すでに十年以上の時日が経過している。この間に会員数（とくにA会員）の増加、会員層の多様化など、本学会の会員構成が変化した。この数年、これに関連して、本誌の「会員の広場」欄にも本誌に対するいろいろな意見が寄せられている。この他に私が個人的に耳にした会員の声を要約すると次の3点、すなわち、(1)天気を読みやすくする、(2)気象学関連情報の充実、(3)気象学周辺の関連分野の知見の紹介、が主なものである。

編集委員会では、これまでの編集方針の基本線を引きつぐとともに、これらの要望にも徐々に対応をはかり、より充実した内容の雑誌をお届けするよう努力したい。その第一段階として、新たに「最近の研究から」、「情報ファイル」、「素顔'87」の三つの欄を設ける他、「会員の

広場」など既設の欄も、従来の枠を広げて自由度を持たせ、内容重視の編集を行う方針で、会員からの自由投稿以外に会員などへの依頼原稿もお願いすることが多くなると思われる。

本誌は、会員の御協力によって成り立っている。お気づきの点について、御意見・御要望をお寄せいただくと同時に、論文や解説をはじめ、いろいろな欄に積極的な御投稿をお願いする次第である。

なお、本誌は会員へのサービスを重視しているが、印刷会社との契約で、原稿の印刷所への入稿日が定められている。そのためぎりぎりの線として、編集委員会では、一般の原稿は、発行月の前々月の末日を締切日としている。この他、会員に対して緊急を要するお知らせ等で、印刷頁1頁以内の短かいものに限り、発行月の前月の末日まで受け付けが可能である。御協力を願いたい。

(河村 武)